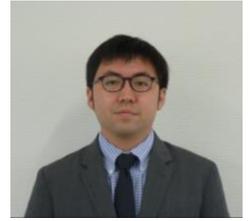


研究タイトル：

## 多材積型木造建築の計画・開発研究



氏名： 正木 哲 / Tetsu Masaki E-mail: masaki@ariake-nct.ac.jp

職名： 助教 学位： 博士(人間環境学)

所属学会・協会： 日本建築学会

キーワード： 木造住宅, 木造建築, 木質化技術, 新構法, 建築デザイン

技術相談

提供可能技術：

- ・地域産木材を利用した木造建築の計画・設計に関する相談
- ・新しい木造建築デザインに関する技術相談
- ・建築物における木材利用に関する情報提供

### 研究内容： 多材積型木造住宅のデザイン研究

地球環境保全の観点から、建築物における更なる木材利用が求められています。

本研究では、従来の木造建築の在り方を見直し、地球環境時代にふさわしい木造建築を「多材積型木造建築」と概念定義したうえで、地域産木材を使用する新しい住宅構法を考案、開発に取り組んでいます。

「多材積型木造建築」は、木材の素材特性を最大限に活かすことを前提としたうえで、多材積の木材は炭素貯蔵庫としてより多くの炭素を固定して大気中の二酸化炭素排出を抑制することで地球温暖化防止に貢献することが求められます。そこで、多材積型木造建築を実現する方法として、九州北部地域で開発された新しい木質材料(スギ BP 材)を在来軸組工法の壁や床に用いる新構法を開発しました。これまで、新構法により実験的住宅を2棟建設しており、木材使用量(材積量)の建築部位別または用途別構成比率など多材積化の効果等を検証してきました。

一方で、木材の支給について着目すると、地域材の調達や製品の流通、または、木材利用を促すためのインセンティブがある制度など、木材利用をより一層促す仕組みの構築が求められています。そこで、地域産木材を利用促進する先進的な取り組み(制度)を対象として制度の課題を考察するなど、近年では木材利用または木材の調達に関する研究も行っています。



図 響きの家：2階床にパネル材を敷き込む。

### Available Facilities and Equipment
